

特別シンポジウム 『好事例表彰の受賞とその後』

[平成30年 導入利活用部門]

“声を失ったパーソナリティ”が
ラジオ番組を継続



NPO法人 iCareほっかいどうとは

2012年に設立

ALSなどの神経難病や重度障害により
コミュニケーションに困難を抱える方の
意思伝達支援を目的に活動しています

2016年には医療的ケアの必要な
重度心身障害児のための
放課後デイばおばぶを開設



活動範囲は北海道全域

iCareほっかいどうの活動原点

活動の原点は、コミュニケーションが取れなくなった方の**機器によるコミュニケーション支援**です。上肢下肢の自由が奪われ、声を出せず、意思疎通が出来なくなった、なりつつある方の意思疎通を支えることが大きな目的です。

出会う方で、声を残したいと考えている人は少なくありません。それぞれの方の思いに寄り添うために、**声を残す取り組みを2014年から始めました。**

自分の声で話したい人の思いは、人それぞれに深い理由があります。

ALSになったお母さんが、いつまでも自分の声で子供に話しかけられるように、とか、喉頭がんで喉頭摘出をした医師が職場に立ち続けるために、とか。

自分たちは音声技術者ではありませんが、その方の思いに寄り添える、近い位置にいます。

2016年にボイスターに出会ったことをきっかけにヒューマンテクノシステムさんとのトライアル収録を始めました。

自分の声ソフトウェア 『ボイスター』とは

◆自由な文字列を 自分の声で読み上げてくれる

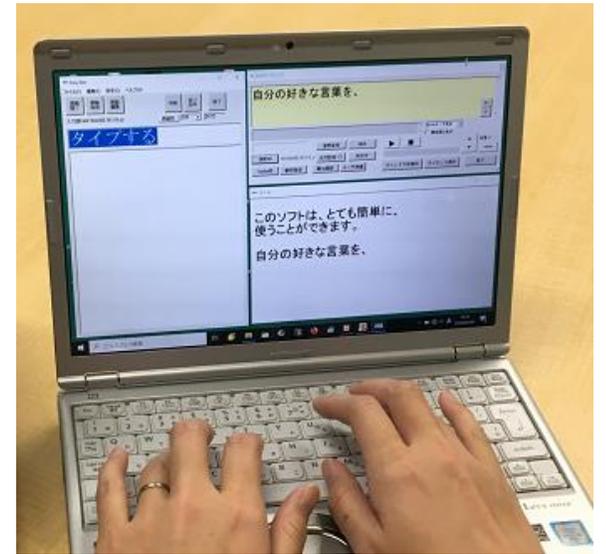
キーボードから自由な文章入力ができる

◆その人らしさを声を介して伝える

自分の声を想起させる合成音生成にこだわりがある

◆日本語を話せる方であれば 誰の声でも作成できる

静かな環境で半日程度の時間で録音する



その人らしさの再現とは…

声質だけでなく**口調**や**雰囲気**まで再現 . . . 「アイデンティティ」の維持
声を失われる**喉頭摘出**や**ALS**の方へ提供 . . . 「第二の自分の声」として

気管切開したALS患者によるラジオ番組 ALSのたわごとのご紹介

◆札幌市西区 三角山放送局

- ・理念「いっしょに、ね」。 広く市民が参加。

◆ラジオパーソナリティ 米沢和也氏

- ・ALS患者『ALSのたわごと』担当

<http://www.sankakuyama.co.jp/contents/2017/03/22/005342.php>

- ・病気の進行に伴う人工呼吸器装着 ⇒ 気管切開により声を失う
- ・手術前に音声収録 ⇒ ボイスターを作成
- ・手術後、視線入力ソフトと組合せて日常生活での会話に利用
- ・**自らのラジオ番組を継続 (2015.6~2020.10)**

◆アシスタント 佐藤美由紀

- ・番組内、あ・うんの呼吸で、米沢氏をサポート

自分の声を再現するソフトウェア 「ボイスター」との出会いが人生を180度変えた



ヒューマンテクノシステム
渡辺聡 氏

番組制作の流れ



病院や施設の自室
準備



- 次回の構想
- **原稿**を作成



スタジオ
収録時

原稿を使って、
自分のタイミングで発声

対話



アシスタント

実時間で文字入力発声



収録後

編集（ほぼ何もしない）

動画抜き

その後、番組は順調に進んでいったが、



北海道 札幌市 三角山放送局にて 米沢 和也さん 2018年3月21日



ラジオへの思いを残しつつ
2020年7月27日急逝

米沢さんが遺した足跡は世界のALS患者に大きな影響を与えた



意思伝達装置を使用したALS患者さんの事例⑥ ～声を失ってもラジオを続けたい！ALS患者のパーソナリティの挑戦～



自分の声を再生するソフトを使用した米沢さんの番組は、下記で一部を試聴可能です。

三角山放送局 声を失ってもラジオを続けたい～ALS患者のパーソナリティ米沢和也さんの挑戦～

<http://www.sankakuyama.co.jp/contents/2017/03/22/005342.php>

https://www.youtube.com/watch?time_continue=1440&v=3MMXa95CQHs&feature=emb_logo

米沢和也さん(北海道札幌市)

- 年齢(写真撮影当時): 59歳
- 「当初、人工呼吸器をつけずにそのまま息を引き取るつもりだった」という米沢さんは、ラジオ番組を担当してALSの研究の話や治療の話を紹介しているうちに、「自分は生きて近い将来できるであろうALSの治療を受けてみたい」と思い、人工呼吸器をつける選択をして声を失いましたが、視線入力 of 意思伝達装置と自分の声を再生するソフトで、ラジオ番組の担当を続けました。

2021年1月から ラジオ「ALSのたわごと」はカタチを変えて、第2幕へ

- ◆三角山放送局「ALSのたわごと」FM76.2MHz
　　<インターネット・スマートフォンでも聴取可能>
- ◆土曜リレーエッセイ 毎月第4土曜日13時～14時
- ◆第1回目の放送は、米沢さんの奥様の米沢晴美さんと、生前から親交のあった岐阜の恩田さんがゲスト出演。
- ◆毎回、患者さんや支援者などをゲストに招いている。
- ◆米沢さんが遺してくれた番組を、みんなでタスキを繋いでいる。

大平まゆみさんの事例

◆プロフィール

- バイオリニスト。21年以上に渡り札幌交響楽団コンサートマスタを務める
- 2019年にALSであることを公表。過去のラジオ出演時の音声からボイスターを作成し、各種メッセージの発信に利用している

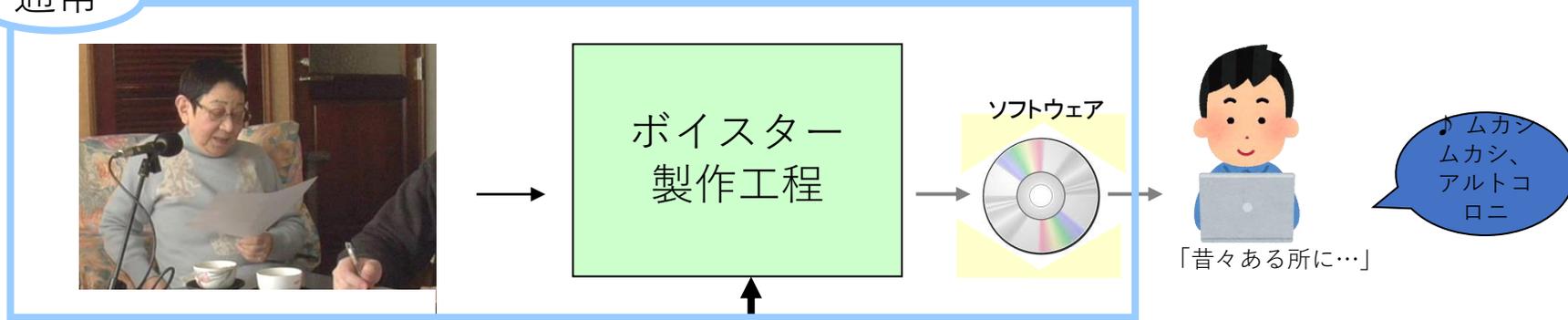
◆ラジオ番組「From My Heart」…………… ※Podcastによる番組

- AIR-G「朝クラ」のスピンオフ番組
- 毎回テーマの異なる数分間の音声メッセージを「自分の声」で放送
- 2021年2月から放送開始。これまで13回放送されている。

既存音声を利用したボイスター製作

通常

(のボイスター製作の流れ)



専用の原稿を読み上げて音声収録を行う

今回



ラジオ番組出演時の高品質な収録音声を、局が保存してくれていた

	通常	今回
発話	読み上げ	自発的
テキスト	設計された原稿	自由度は高い
表情	概ね一樣	バリエーション多い

大平さんの『第二幕』

AirG 朝クラ

『FromMyHeart (フロムマイハート)』

放送原稿は、大平さんが意思伝達装置TCスキャンを使い視線で操作して執筆しています

2021/05/30 09:08

大平まゆみのサウンド・エッセイ

元・札幌のコンサートマスター大平まゆみさんがボイスターで発信！



ALS患者、元・札幌のコンサートマスター大平まゆみさんは、声を出すことが難しい状態ですが、視線入力で文章を書いたりメールのやり取りをしています。その視線入力の言葉を「ボイスター」という装置を使うことでもとの大平さんの声でおしゃべりすることができます。

この番組「朝クラ！」あてに不定期でメッセージをいただいています。今回は2つのエピソードとそのトークにふさわしい曲もおかけします。もちろん大平さんのCDからの曲もON AIR。

■今回の放送、音楽と一緒に聴きになりたい方はradiko ラジコで ↓

朝クラ！ | AIR-G* (FM北海道) <http://radiko.jp/share/?t=20210530061315&sid=AIR-G>

※2021年6月6日まで道内の方は、タイムシフトでお聴きになれます。

北海道外の方はradikoプレミアム会員(有料)に加入して、エリアフリー機能をご利用ください。→ [radikoエリアフリーについて](#)

放送後もう一度聞きたい方、道内外や海外のお知り合いにも聞いてもらいたい方は「ポッドキャスト」をご利用ください。放送でかかった曲は流れませんので、ご了承ください。

→ [ポッドキャストはこちら](#)

朝クラ！

日 5:00~5:30



パーソナリティ

高山 秀範

大平さん「肉声」公開へ

ラジオの音源合成 ■ 道新文化賞の喜び語る

元札幌交響楽団コンサートマスター 大平まゆみさん 道新文化賞受賞

2020年〇月〇日

・受賞のメッセージ



ALS闘病中

筋力が徐々に低下し発声困難になる難病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）を公表し、闘病中の元札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみさん（63）が、過去に出演したAIR-Gのラジオ番組の音源を合成して「肉声メッセージ」を作成。13日朝、同局の番組と、どうしん電子版で公開する。元気の声の音源が残っていた奇跡と、闘病を支える関係者の尽力で、大平さんが再びファンに親しく語りかける。

（山本哲朗）

メッセージは第74回北海道 自分らしく進んでいきたい新聞文化賞受賞に寄せた1分42秒。「音楽の力を信じて突っ走った第1幕は終わったが、既に始まった第2幕も、皆さんの温かい気持ちに

声を合成し、文章を音声に変換するソフト「ボイスター」を組み合わせて作成した。札幌市内の自宅で過ごす大平さんは今夏、意思伝達装置を導入したが、11月に予定された文化賞贈呈式では肉声で喜びを伝えたいと、ボイスターで使う自分の声の音源を探した。自身が2010〜15年に出演した同局のクラシック番組「朝クラ」で、編集前の音源143回分を保管しているのと分かり、提供を受けた。

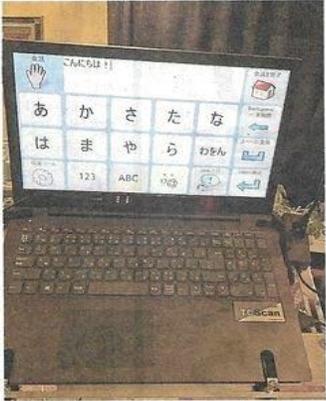
音源は明瞭で余計な音を含まず、合成にぴったり。家族も「ママの声、話し方そのままと驚く出来栄となった。

ボイスターを開発したヒューマンテクノシステム（東京）も「通常は発病してから声を録音するため、万全な状態ではないことが多いが、今回は本当に恵まれた」と話す。

番組を担当する高山秀毅アナウンサー（55）は「大平さんらしい温かい声のメッセージに仕上がり、驚いた。新しい一歩を応援できてうれしい。贈呈式がコロナ禍で中止されたため、放送での紹介を申し出た。

発声困難な人にとってボイスターは有用なツールだが、意思伝達装置と違い導入への補助がなく、40万〜100万円の出費となる。大平さんを支えるNPO法人iCare（アイケア）ほっかいどう（札幌）はこれらの装置の普及を進めており、佐藤美由紀理事は「声を失っても意思疎通の方法があることが広く知られてほしい」と期待している。

メッセージは13日午前6時からAIR-G「朝クラ」で放送。終了後、どうしん電子版でも公開する。



①大平まゆみさんが使っている「意思伝達装置」のパソコンセット（大平さん提供）
②ALSを公表し、札幌交響楽団を退団した後も奉仕活動でバイオリンを演奏する大平まゆみさん（2019年11月24日、札幌市厚別区）

ALSのラジオパーソナリティー「よねざわかずや」氏とは



Special Thanks

	米沢和也さん(ALS患者・故人)
	米沢晴美さん(米沢さんの奥様)
	大平まゆみさん(ALS患者・バイオリニスト)
資料提供	高山秀毅さん(FM AirG)
音声編集	渡辺聡さん(ヒューマンテクノシステム)
	渡辺道子さん(ボンボズ)
写真提供	日本ALS協会 青木さん
動画編集	鴨崎有里(iCareほっかいどうボランティア)
助言	蛸島八重子(iCareほっかいどうボランティア)